

令和4年度「令和の里海づくり」モデル事業実  
施業務

「赤穂の里海・里山」の保全・利活用好循環形  
成に向けた人材育成事業 実施報告書

令和5年2月15日

一般社団法人あこう魅力発信基地

# 目次

---

- I. 先進地視察の実施
- II. 普及啓発チラシの作成
- III. フィードバック会の実施
- IV. 情報発信
- V. 「地域資源の保全・再生等と利活用の好循環形成や連携体制づくり」に関する課題と今後の方向性

# 事業実施概要

---

## ○事業実施に至った背景

- ・赤穂市の南東部に位置する坂越地区は、北前船の寄港地として栄えた古いまち並みが残る港町である。また、国の特別天然記念物に指定されている「生島樹林」に守られて年中波の穏やかな坂越湾や、トレッキングに適した低山である茶臼山・宝珠山等の自然資源にも恵まれている。

これらの資源は、これまで地域住民の愛着や誇りによって守られてきたものであるが、保護・保全の活動を行うこと自体が目的化し、「何のために」といった動機づけが欠落しがちである。また、地域の少子高齢化の進展とともに、環境保護・保全のための活動の規模が縮小していくことが懸念される。

そこで、里海・里山・まち並みといったかけがえのない地域資源を守り続けていくための新たな仕組み作りが必要である。

## ○事業の主旨及び目的

- ・地域資源を活用した観光客誘致が、地域に利益をもたらし、保護・保全活動の充実に繋がるという好循環を創出する
- ・具体的には、坂越地区の里海・里山・まち並みといった資源を使った観光コンテンツを造成し、地域への人の流れの創出と地域内で消費される金額の向上を図る

## ○本事業で実施した内容

- ・里海・里山・まち並みを使った観光ガイド商品造成に向けたガイド要員の養成とスキル向上を図るための、先進地（三重県鳥羽市）視察
- ・坂越地区の里海・里山のプロモーションや普及啓発のためのマップ作成
- ・先進地視察の成果や観光ガイド商品の造成状況の振り返りや報告、観光地としての坂越地区のあり方などについて、関係事業者と地域住民間での理解の共有のためのワークショップ・セミナーの開催

---

## I. 先進地視察の実施

日 時：令和4年9月8日（木）～9日（金）

視察先：三重県鳥羽市 有限会社オズ（海島遊民くらぶ）

参加者：9名（ガイド要員等：6名、DMO3名）

地域の歴史や自然、人といった資源を有効に活用した観光商品の造成や、地域内で好循環を生み出す仕組み作りを学ぶため、三重県鳥羽市 有限会社オズ（海島遊民くらぶ）への視察研修を実施した。

# 実施内容

先進地視察(三重県鳥羽市 海島遊民くらぶ)

## 【行程1日目】

9月8日(木)

相差地区(海女の国オリジナルツアー)	相差地区への移動の途中で、鳥羽の地形とそこでの暮らしについて説明を受ける
・海女小屋「相差かまど おぜごさん」(見学・昼食) ・石神さん参拝	海女小屋にて昼食。海女の生活や、海女ならではの苦労話を聴く。その後、相差の町中を歩いて地元住民から愛される神社「石神」さんを参拝。地元住民の力で守られてきた経緯などを聴く。
カヤック艇庫見学	カヤック体験のフィールドと艇庫・備品等を見学
座学・ワークショップ	座学にて、魅力ある観光商品の造成について受講。その土地でしかできない体験、価値に関する考え方を学ぶ。
個別相談(海島遊民くらぶ 江崎貴久氏)	観光商品の造成について、個別で江崎貴久氏と相談・指導を受ける。



鳥羽市 海島遊民くらぶで  
ツアー出発前のオリエン  
テーション



海女小屋 相差かまどお  
ぜごさん  
昼食を取りながら、現役  
の海女さんの話を聴く



海女小屋から石神さんへ  
の移動途中で見つけた案内  
看板。  
セーマンドーマンが描かれて  
おり、海女の町であるこ  
とを感じさせる



石神さん  
元々地元住民が信仰してきた小さな神社  
であったが、現在は非常に多くの観光客  
が訪れるスポットになっている。

# 実施内容

先進地視察(三重県鳥羽市 海島遊民くらぶ)

## 【行程2日目】

9月9日(金)

### 鳥羽の台所つまみ食いウォーキング

- ・大岩武雄商店(酒店)
- ・すし梅
- ・木場真珠店

まち歩きしながら、鳥羽のお店を巡るツアーに参加。

### 座学・ワークショップ

参加者各員が考えた、観光ガイド商品案について、プレゼンを実施。講評・指導を受ける。

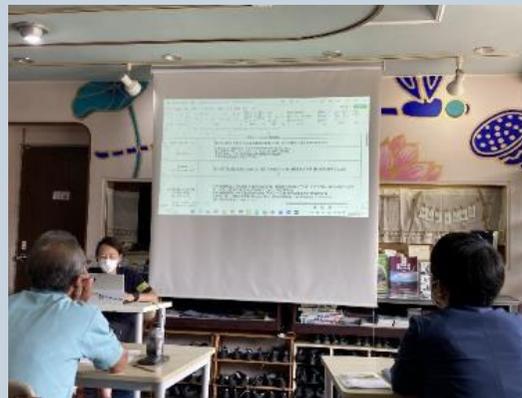


つまみ食いウォーキング  
大岩武雄商店～すし梅

すし梅では、「ハラン」の文様に関する説明や、実際に切るところを見学。



つまみ食いウォーキング  
木場真珠店  
店主様より、良い真珠の見分け方について説明を受ける。真珠のまち鳥羽ならではの体験。



# 事業実施の効果

## 【視察研修の成果】

今回の視察研修は、赤穂市坂越地区における里海・里山・古いまち並み、歴史、産業、文化といった地域の資源を使った観光商品の造成について学ぶことを主眼において実施した。研修を通じて学び、体感した内容は以下のとおり。

### ○資源の有効活用について

- ・各地域に残る文化・風習・産業は、その土地の地形や歴史によって形づくられたものであり、各々が「その土地ならではの」「そこにしか無い」独自の資源となり得る。
- ・どこにでもある観光用の「見せ物」ではなく、「本物」を見せることが必要。

### ○地域との連携について

- ・その地域の文化、風習、信仰が成立してきた背景に注目する。
- ・地域の人が守ってきた資源は、何故大切にされてきたのかといった理由を知り、伝える。
- ・誰かの笑顔のために、誰かの笑顔を消さない。

### ○地域独自の観光商品造成について

- ・現在は全国に「安易な商品」（どこにでもある商品）が溢れすぎている。
- ・「本物」を志向する顧客獲得の必要性。（客単価の向上、リピーター化・移住の期待）
- ・ターゲット、顧客に伝えたいこと、他の地域との違いといったことを明確化することが必要。

以上を踏まえて、地域資源を活用した「持続可能な観光」、「持続可能な地域づくり」を目標に、観光商品の造成を行う。



お客様・自然・住民・事業者の4者が幸せを感じられる「感幸」の実現

---

## II. 普及啓発チラシの作成

坂越地区の「里海」「里山」を活用するためのMAPを作成。

同時にまち歩きMAPも作成し、坂越地区の魅力の発信と、滞在時間の延長、消費額向上のためのツールとして使用する。



---

### III. フィードバック会の実施

①モニターツアーの状況共有と商品造成に関するワークショップ

日時：令和4年10月27日（木） 13：30～15：30

場所：赤穂市役所3階 303会議室

②令和4年度の取り組みの報告及び坂越地区における観光地域づくりセミナー&ワークショップ

日時：令和5年2月14日（火） 18：30～20：30

場所：坂越公民館 大会議室

# 実施内容

## 【開催の内容】

### ①モニターツアーの状況共有と商品造成に関するワークショップ

- 内 容：・ 8～9月にかけて実施したモニターツアー参加者のアンケート結果共有  
・ モニターツアーの反省点と改善点の協議  
・ 9月8～9日にかけて実施した鳥羽視察研修の成果を活かした商品造成・磨き上げについて  
※視察研修の際に使用した商品ワークシートの活用（ターゲット、コンセプトの明確化）

参 加 者：11名（関係事業者等8名、事務局3名）

### ②令和4年度の取り組みの報告及び坂越地区における観光地域づくりセミナー&ワークショップ

- 内 容：○令和4年度の取り組みに関する報告・説明  
・ 観光庁 地域独自の観光資源を活用した稼げる看板商品の創出事業について  
・ 環境省 令和の里海づくりモデル事業について  
○他市町での取り組み事例の紹介について（地域資源を活かした観光地域づくりについて）  
・ 講師：田中三文氏  
・ 地域住民や店舗・商店等を巻き込んで観光地域づくりに取り組む9事例の紹介  
○坂越地区の今後の方向性について  
・ 意見交換・WS

参 加 者：20名（地元住民・地元店舗・関係事業者等17人、事務局3名）

## 【開催状況写真】



---

## IV. 情報発信

- Instagramアカウント「Akotivitty」で、坂越地区の「海」「山」に関する情報や、海の環境美化に関する情報を発信しているほか、8～9月にかけて坂越地区で実施した「里海」「里山」を使った観光商品のモニターツアー実施状況を発信。
- 今後、商品販売を行うとともに、坂越の里海・里山を使ったアクティビティに関する情報の発信や、地域資源の保全に関する情報を発信していく予定。
- 「坂越遊び場MAP」は、（一社）あこう魅力発信基地のHPである「Ako-mag」からもダウンロード可能

# 実施内容

WEB・SNSによる坂越地区PR

- 坂越地区の里海・里山を使った観光商品のモニターツアーの募集PR
- モニターツアー実施状況をSNSで発信
- その他、坂越地区のトレッキングや、マリンスポーツ、環境美化活動等の情報を、WEB・SNSで発信

## モニターツアー募集広告

民間団体が行う海岸美化活動のPR

坂越の自然資源を使ったアクティビティの発信

WEBサイトへの記事掲載（準備中）

---

## V. 「地域資源の保全・再生等と利活用の好循環形成や連携体制づくり」に関する課題および今後の方向性

坂越地区での「持続可能な観光地域づくり」の実現に向けて

# 課題および今後の方向性

坂越地区での「持続可能な観光地域づくり」に向けて

## 令和4年度の取り組みを踏まえた今後の方向性

### 1. 地域資源を積極的に活用した高付加価値な観光商品の造成

地域資源が住民や関係者の自主的な取組によって保護・保全されていくためには、その資源が地域の魅力や、地域の活性化に必要なものであると認知される必要がある。

そのためには、地域資源の積極的な活用が、地域内の消費・流通の拡大や、関係・交流人口や移住希望者を増加させることで、地域の活性化に寄与するものであることが望ましい。

今年度の取り組みでは、里海・里山を使ったガイドツアーの造成を行ったが、まだ小規模で、波及効果としては限定的であることから、今後も連携する事業者の拡大や、商品の磨き上げによる高付加価値化を継続して実施することが必要である。

### 2. 住民生活や自然資源と調和した、持続可能な観光地域づくり

坂越地区の古民家カフェや雑貨店などを目当てに訪れる観光客が、ここ数年で急激に増加した。

そのため、観光客に由来する交通渋滞の発生や、ゴミの増加・ポイ捨て等による生活環境の悪化等が懸念される状況にある。

また、水上オートバイによる騒音や、カヤック愛好者による「生島（普段は禁足地）」への無断上陸など、モラルの低い観光・レジャー客に対する苦情も耳にする。

加えて、坂越地区では、現在県の「空き家特区制度」の適用を受けるべく、その申請準備が進められており、これが認められれば、区域内での空き家の用途や売買に関する規制が大幅に緩和されるため、古民家を使ったカフェや店舗が増え、外部からの人流が更に増加することも予想される。

地域の活性化のためには、外からの人の流れを作ることは重要であるが、その一方で、元々そこに住む人達の生活や環境に悪い影響を及ぼすことがあってはならない。

持続可能な観光地域づくりを進めるためには、地元住民の理解と協力を得ることは必須であることから、住民へのヒアリングや満足度調査を実施し、観光事業者にフィードバックするなど、住民と観光事業者との間で相互理解を深めるための取り組みも必要と考える。

### 3. 今後の方向性

令和4年度は、地域資源を活用して地域に人や金の流れを創出するための観光ガイド商品の造成に取り組んだ。

その過程で、地域の住民団体や自治会、飲食店・観光関係事業者、環境保全に取り組む団体など、DMOをハブとして幅広い多様な関係者とのネットワークを構築することができた。

今後も、このネットワークを活用して、魅力のある観光商品の開発に努めるとともに、そこから得た利益が地域の中で循環し、地域の活性化や地域資源の保全・保護に繋がっていくような、持続可能な観光地域づくりを目指す。

# 保全・再生等と利活用の好循環ビジョン

地域資源の活用し、観光振興と資源の保全・保護の好循環の創出を目指す。

